

【研究ノート】

**言葉の探求
ショート・チョットの笑劇場 ③**

増 田 辰 良

研究ノート

言葉の探求

シヨート・チョット的笑劇場

③

増田辰良

目次

はじめに

シヨート・チョット集 ③

はじめに

言葉って、おもしろい。どんなに立派な人物の、どんなにお金持ちの、どんなに威張った政治家の、どんなに親しい友人の言葉よりも、一曲の歌詞から心に響く勇気をもらうことがある。

♪永遠なのか本当か 時の流れは続くのか

いつまで経っても変わらない そんな物あるだろうか

見てきた物や聞いた事 いままで覚えた全部

でたらめだったら面白い そんな気持ち分かるでしょう

答えはきつと奥の方 心のずつと奥の方

涙はそこからやって来る 心のずつと奥の方

・・・

情熱の真っ赤な薔薇を胸に咲かせよう

花瓶に水をあげましょう 心のずつと奥の方♪

(The BLUE HEARTS「情熱の薔薇」作詞・作曲 甲本ヒロト)

この歌詞は現状の苦難を、能力の限界を、飛び越え閉塞した心の空気をなんとか振り払おうと自分を奮い立たせてくれる言葉たちで連なっている。パラダイムを転換させてやろうという野心に満ちた言葉たちである。言葉の力ってすごい。

♪悩みつづけた日々が

まるで嘘のように

忘れられる時が

来るまで心を閉じたまま

暮してゆこう

遠くで汽笛を聞きながら

何もいいことがなかった この街で♪

(アリス「遠くで汽笛を聞きながら」作詞 谷村新司 作曲 堀内孝雄)

この歌詞はネガティブ・ケイパビリティを描いている。自分の能力を信じて、伸ばそうと、夢を実現したくて、たくさんたくさん努力をしてきた。周囲の他人にもいつぱい、いつぱい支えられてきた。でも、

キーワード：言葉、シヨート・チョット、笑い(ユーモア)

もうドン詰り。これきりにしよう、という決意を心に秘めて書かれた言葉たちが連なっている。言葉の奥はあまりにも深い。

これらの言葉たちはままたまならない人生をどう受け入れるか、この逆境を恨むのではなく、そこに肯定的な意味をどう見出すのか、について考えさせてくれる。

人が言葉からとれただけのものを読み取るかは、その人の人生経験や内面の成熟にかかわっている。他人を励ます、他人に忠告する言葉をかけるのは気楽だし、容易である。が自分を励ます、自分を知る言葉を探すことは大変だし、容易ではない。その唯一の方法は本を読むことである。本には言葉が詰まっている。本を読むということは書き手と対話をするということであるが、それが自分との対話へと変わり、もう一人別の自分を発見する瞬間を体験させてくれる。そう、「意味のある偶然」に遭遇できるのである。

参考文献

榊本達生（2020）「『ネガティブ・ケイパビリティ』のススめ 結論を急がず悩みに耐える」『朝日新聞』4月12日。
柳田邦男（2006）『言葉の力、生きる力』新潮文庫、270～271頁参照。

ショート・チョット集 ③

国民の総意

おーい、菅！ 総裁選への立候補をよく断念したなあ!! 初めての英断、自滅だ!!!

“反省も 謝罪もなく 辞めた人”

国民が次期総理に望むこと

ちゃんと謝罪できること、
しっかりと責任をとれること、
自分の給与をカットできること。

想像力を欠く言葉

『野戦病院』

2021年夏 川柳

「いづれにせよ」やってみましたオリンピック
バツハさん狂詩曲聴き終る
祭典か真夏の悪夢正夢に
スタッフに金（章）を与える摩訶不思議
コロナ禍で金は増えても喜べず

感染はメダルの数に比例する
祭典に菌喜んで駆け回る
アスリート菌に屈して涙する
金かけて元が取れずに終わる夏
ラムダ株デルタ株より格上に
ラムダ株上場へあと一步
覚悟なき総理の言葉幼児以下
いいかげん長生きせえや菅総理
本心を見せたくなくて「読み飛ばし」
支持率と感染率は反比例
菅総理謝りなさい脳ナシを
謝らず責任とらず離任せず
菅総理「妖精さん」の具体例
恥さらし理解できない菅総理
舌戦は「ごはん論法」食い違う
国民の目線に立てぬ政治まつりごと
打っ手なし愚策ばかりの政治
「宣言」を後手後手と5度出ごたびす
先読まずコロナ対策後手後手に
なりたがる脳のない人政治家に
役人も政治家たちもバカばかり
政治とは無能な人のする仕事
政治家の言葉は軽く脳足りん
政治家の貧しい言葉伝わらず
トンネルを抜けたつもりが闇続く
国難を総裁選でごまかすな

新型コロナウイルス感染者数爆増中

― 自助↓共助↓公助。
菅義偉総理へ。

「あなたの薄汚い根性が理解できたよ」
感染者より。

時代のキーワード

想像力、言葉の力、共感力。

自助↓共助↓自宅療養

独居老人 頼れる血縁者、友人・知人がいません！

医療従事者 ワクチン、病床、看護師が足りません！

菅義偉総理 公が助けるのは最後ですよ。自分の命は自分で守りましょう。

独居老人 「あなた、どこの誰?」もう、何もしゃべるな!!

言い換え

自宅待機↓ 自宅療養↓ 自宅放置↓ 孤独死。

国民からの評価

菅のノウタリン！
西村のクソツタレ！
河野のボケ！
田村のカス！
尾身さん！ あんたは偉い！！

高齢者への新型コロナウイルス感染予防ワクチン接種

― 予約。
早い者勝ち。
― 勝因。
家族総出で固定電話を掛けまくり、スマホでネットを操作し続ける。

― 敗因。
デジタル・デイバイド。
― 敗者の眩き解決策
せめて、せめてえ、年齢順、氏名の五十音順に受け付けて欲しい。

旧新語録

〈旧語〉不退転の決意、全力で取り組む、アビガン、レムデシビル、三蜜、ソーシャルディスタンス、黙食、安全・安心、不要不急、スピード感、トリラージ、サーキットブレーカー、自衛警察、アナフィラキシーショック、ECMO、自粛要請、緊急事態宣言、まん延防止等重点措置、テレワーク、エッセンシャルワーカー。

〈新語〉ブースター、バブル、抗体カクテル療法、デルタ株、アルファ株、ミュー株、イーター株、ブレイクスルー感染、ワクチンパスポート、メッセンジャーRNA、交差接種、医療崩壊、自宅療養、入院待機ステーション、酸素ステーション、パルスオキシメータ、宿泊療養、野戦病院、ワクチンカー、ペントアップ需要、リベンジ消費、オミクロン株、フルロナ、ツインデミック。

エールの交換

祖父から孫（1年生）へ ♪ピカピカの1年生♪
孫から祖父へ ♪ピカピカのハゲ頭!!♪

ある大学？

― 議題 2023年度以降の大学教育改革。

教授 この会議に学生も出席させてください。
議長 それは無駄、愚問というものです。

言葉の力

他人がナツジを理解してくれなくても、ナジツテはいけません。
なぜ？
それはスナツジを誘発しますから。

ポジティブ

失恋した心を癒すには、同じように失恋した異性に声をかけることで
す。
なぜ？
マイナス×マイナス＝プラス。

オンライン 川柳

オンライン 顔を隠され オフライン
オンライン 機器を持ってずに オフライン
オンライン 学ぶ意欲は オフライン
オンライン 機械音痴は オフライン

自然 川柳

温暖化誰のせいだと知らぬ顔

雨降って地固まらずに流れ出す
災害が起こる原因人にあり
虫の音を風鈴とする趣味人
雨降って一時消える虫の声
人を呑む「土石流」も人の所為^{せい}
エイリアン地球を見てほくそ笑む
人間は悪魔にも似たウイルスだ
虫よりも下等にみえる人間が

急なお片づけ

— ZOOMを使った大学のゼミナール。
教授 △△さん！ 自宅からかい？
学生 はっ、はい！
教授 顔を出しなさい！
学生 ちよ、ちよっと待ってください。ビデオの調子があ。
教授 早くしなさい。もう開始時刻を過ぎている。
学生 ……。ゴソゴソ、ガサガサ。
教授 ビデオの解除をクリックすればいいんだよ。
学生 ……ゴソゴソ、ガサガサ、ガタ、ガターン！

オンライン (ZOOMの画面) 授業

— 憲法のゼミナール。
○×君！ 顔を出しなさい。
嫌です。

私を含めて参加者は4人だよ。
 プライバシーの侵害です。
 う〜ん。

― 参加者（受講生）280人。
 教授は見えない相手（真つ黒な画面）に向かって講義をする。

― 参加場所。

×○君！ 自宅からかい？

いいえ、バイト先の事務室です。

××君！ 君はどこにいるんだ。

カフェです。

△△君！ 君は〜どこだあ？

レジヤ〜ホテルです。

……？

― 画面の背景。

×△君！ その背景の静止画像の女性は北（朝鮮）のTVアナウンサーをしていたリ・チョニ（季春姫）さんだろ？

は〜い。將軍様になった気分なんですけどねえ。

他のものに変えてください！ 変えなさい！！

― 飲み会気分。

△×君！ 君は何を飲んでいるんだ。それって缶ビールじゃないのかい？

先生〜。違いますよ〜。ノンアルで〜す！

エイリアンにとって

地球は動物園、植物園、水族館にすぎない。
 地球は動植物の未来における墓場。

わけあり物件

― ここは宇宙の不動産屋。

月、火星、水星、木星、金星、土星には買い手が付いた。

どんなに値段を下げてても買い手の付かない物件があった。外観は黒ずみ、内は生き物たちの墓場と化していた。それは人類が残した負の遺産「地球」だった。

レンタル社会

― 超少子高齢時代。子供は社会の共有財産となっていた。多くの高齢者たちは孫から「お祖父ちゃん」「お祖母ちゃん」と呼ばれることに憧れていた。島崎絹子もそんな1人であった。

「法子さん。じゃあ、九時に健ちゃんを迎えに伺いますから。よろしく」と、祖母は伝えて受話器を下ろした。

― 孫と遊園地に来た。

「おばあちゃん！ こっちこっち。今度はこのカップが回るものに乗

るよ」

「ああ、あくあ。健ちゃん！ 待って。そんなに急がないことよ。おばあちゃんは年寄りだからね。息がきれちゃうわ。あくあ」

祖母は遊具を遊んで回る孫の体力に負けて、一人ぼつんとベンチに座り、遠目にその姿を追っている。その前を老婦人が通り過ぎようとして、足を止め、声をかけてきた。

「あら。島崎さんじゃない？」

島崎は声の方へ顔を向けた。

「私、私です。伊東です」

島崎はとっさに記憶のテープを巻き戻し、声の主が元の職場の同僚であることを思い出した。

「伊東さん？」と確認してから「お久しぶり。お元気ですか」と返した。

「このとおり元気よ。今日は？」

「孫を連れて遊びに来たの。あそこのブランコに乗っている男の子よ」と、指差してから「あらら、かわいいお嬢ちゃんだこと」と、伊東と手をつないだ女兒に微笑みかけた。

「3歳なの。名前はルナ」

ルナは伊東のお尻に隠れてしまった。

「あらあら、恥ずかしがって。ほんとかわいいわね。きれいなお洋服だこと。それに真っ赤なお靴。よくお似合いよ」

と話ながら島崎は、これらは若いころの伊東の趣味にぴったりだと想いを巡らせた。

「みんな丸大デパートで買ったのよ」

と、伊東は頬を緩めた。

それからブランコに目をやり、

「男の子は元気が一番よね」

さらに頬を緩めた。

「健太^{けんた}っていうの。とつても優しくて」

島崎も頬を緩めて応じた。

「お互い、元気でいられて幸せね」と言う伊東に「孫もいるし」と、島崎がつなげた。

伊東はコクンと首を下げてから腕時計に目を落とすと、

「今日はお昼までしか遊ばなくてえ。ルナ1時から、ピアノのレッスンがあつて」

と残念そうな表情をした。

つられて島崎も、

「時間を守らないと親が過敏に心配して……」

と続けた。

「ルールだから。じゃ私たち帰ります。島崎さん、お元気で」

「伊東さんもね」

伊東はルナの手を握り直してから、歩き始めた。ルナは振り返って、バイバイと右手を振った。

— それを見送ると祖母は健太に「ちよつと早いけど、お昼ご飯にしましょう」と声をかけ、2人はレストランに入った。メニュー表を開き祖母が尋ねる。

「健ちゃん、何を食べたい？ 何でもいいよ。好きなものを選びなさい」

「ええつ。何でもいいの？」

「いいわよ。おばあちゃんのご馳走してあげるから。ふっふっふっ」

「やったー。おばあちゃん、お金、いっぱい持っているの？」

「ほっほっほっ。持つてるわよー。若いときに、ひたすら働いて貯め

るばかりだったからねえ、いっしょにばい、持つてるよ。心配しないで。ふっふっふっ」

「そうなんだあ？ 昨日ねえ、お父さんに今日、おばあちゃんが遊園地へ連れて行ってくれるって話したら、うんと甘えてこい、つて言っただけだよ」

「ほっほっほっ。そうよ。だから、食べたいものを頼んでいいのよ」

「じゃ、お父さんがいつも食べているオムライスでもいいかな？」

「いいわよ。それから」

「他にも食べていいの？」

「健ちゃんはピッカと目を輝かせた。

「いいわよ。好きなものは何かなあ？」

祖母は相好をくずした。

「じゃ、チョコレートパフェを食べたいな」

健ちゃんの瞳はランランと輝いていた。

「パフェね。いいわよ。注文しましょ。遠慮しないでいいからね」

「うん。お姉ちゃんはパフェだけを食べても叱られないけど、僕はまだ幼いから駄目だって、お母さんに叱られるんだあ。1度でいいから食べてみたくて」

健ちゃんは嬉しそうに白状した。

「あら、そうなの？ 今日、特別な日だからね。お母さんには内緒よ。ほっほっほっ」

「うん」

「じゃ、指きりしよう」

と、祖母は目尻を下げて右手の小指を立てた。

指きりゲンマ、指切った」

「あつという間に午後1時になった。2人は手をつないで遊園地を出ます。」

「健ちゃん。何か買って欲しいものはない？」

「いいの？ 買ってもらっても。お金、かかるよ」

「いいのよ。おばあちゃんはいっしょにばい、持つてるからね。それに今日は特別な日だから」

祖母はつないだ手を強く握り返した。

「じゃ、前からずーっと欲しかったゲームを買ってくれる？ お小遣いだと足りないんだよ」

「分かった。それじゃあ、お店へ行きましょう」

健太は、小さな手に余るほどゲームの箱を持って店から出てくる。

「じゃあねえ、今度はおばあちゃんが健ちゃんに洋服をプレゼントしてあげる。デパートへ行きましょう」

「おばあちゃん。僕、誕生日はもう終わったから、プレゼントと言われなくても……」

「いいのよ。今日は特別な日だって言ったでしょ。おばあちゃんを選んであげるから」

「うん。ありがとう」

その声はすまなさそうであった。

大きな袋を提げてデパートから出てきたころには午後3時40分になっていた。健太は祖母を見上げて、心配そうに声をかけます。

「おばあちゃん。4時までには帰る予定だったんじゃないの？ 大丈夫？」

「いいのよ。少くらしい時間を超過しても、へっちゃらよ。でも、お母さんが心配してるかもしれないね。もう帰ろうかあ。ちよつと待ってねえ、その前にお母さんに電話をしておきましょう。こういうときは必ず連絡をしないと、ね」

— 祖母はスマホを使い帰宅が遅れることを伝えた。

「今日は楽しかったねえ。健ちゃん」

「うん。おばあちゃん、楽しかったねー。でも、疲れたんじゃないの？」

「ううん。平気よ。健ちゃんと遊べたんだもの。よーくし、奮発して、タクシーに乗って帰ろう」

「お金かかっちゃうよ」

「いいのよ。健ちゃんと1日、楽しく過ごせたのだから。ほっほっほっ」

— タクシーの中で。

「お孫さんですか？ かわいいですねえ」

高齢の男性ドライバーは声をかけます。

「はい。小学2年生なんです。ふっふっふっ」

祖母はニコニコと笑みを浮かべて健太の頭を撫でながら話します。

「おばあちゃん子ですかあ。そりゃあ、もうかわいいでしょう。わたしも先週の土曜日に孫をつれて動物園へ行ってきましたよ。うまく時間の都合がつかなくて、2時間ほどでしたがね。時間はいくらでも超過してもよかったです。孫も夕方から塾へ行くようで……」

「あら。運転手さんも？ それは残念でしたね」
祖母は運転手の後頭部へ声を返します。

「はい。この時代、どのお子さんも忙しいですから。先月でしたかねえ、お客さんが言うには、親に連絡せずに1時間ほど超過して、孫と遊んでしまったそうです。そうしたら、親から誘拐する気か！ って、怒鳴られて。ずいぶんと金もかかったみたいですがねえ。本人は金じゃない、って言っていました。ルールは守らなきゃあ、ねえ。それが年寄りのためにもなりますから」

運転手の口は滑らかだった。

「電話1本すれば、済むことですのねえ」

祖母は静かに言葉を付け加えた。

運転手も勢いを得て言った。

「でも、孫の我儘にも体力にも負けちゃいますが、一緒にいるだけで日頃の疲れもすつ飛びますよ。思わず、時間を超過してしまうのも肯けます。孫は目に入れても痛くない、って言いますが、この歳になつて実感してますよ」

「そうですねえ」

祖母の声はいかにもという声音であった。

健太は2人の会話には耳を貸さずに買ったゲームの箱をこねくり回していた。

「ピンポン、ピンポン」

「はい」

「ただいま戻りました」

「ママー。僕だよ」

「はーい」

「法子さん。今日は本当に楽しかったわ」

祖母は満面の笑みです。

「そうですね。良かったですねえ。あらら、健太、たくさんお買物をしたのね」

「だって、おばあちゃんが買ってくれたんだもの」

健太は唇を尖らせた。

「すみませんねえ。余分なお金を使わせたみたいで」

法子は軽く頭を下げた。

「いいえ、いいんですよ。かわいい健ちゃんのために使ったのですから」

祖母は弾んだ声を返した。

「すみません。では、私から無事に帰宅したことで、時刻を連絡しておきます」

法子も笑みを返した。

「よろしくお願ひします。じゃあ、健ちゃん、これでお別れね。今日は楽しかったわ。ありがとうね」

そう言うとき祖母は健太の頭と頬を優しく撫でたが、その目にはうっすらと涙を浮かべていた。別れるのがよほど辛かったのか、健太をぎゅっーと抱きしめた。

「おばあちゃんも元気でね。今日はありがとう。さようなら」

健ちゃんも笑顔で手を振って応えた。

祖母は目頭を押さえ名残惜しそうに、待たせたタクシーに乗り込んだ。

— 1週間後。

「トゥルル〜トゥルル〜。はい。こちら血縁者レンタル専門の

(10)

「思叶社」です。担当の長尾望と申します。はい。島崎絹子様ですね。

はい。いつもご利用、ありがとうございます。はい。今回のご要望は結婚式を控えた娘さんですね。はい。(ノートを捲り) 現在、1名様のご登録者がいます。はい。この方は少々、我儘な性格ですが、2ヵ月後に挙式をされる24歳の女性ですが……。はい、……。そうですね。今回は島崎様の出費もかさむかと思われますが……。はい。よろしいですか？ はい。では、承知いたしました。早速、手配をさせていただきます。ちなみにゴールド会員でいらつしやいます島崎様の現在の獲得ポイント数は98です。もう2ポイント獲得されますと、次回のご利用時に3000円の割引をさせていただきます。なお、これまでと同様に契約時間をオーバーされますとその分の超過料金をいただきますので、ご承知おきください。本日はご予約、ありがとうございました」

夜明番

— 時刻は朝なのには外は真つ暗闇である。

どうしたのかなあ？

すると「いけねえ、いけねえ。寝坊して、スイッチをONにするのを忘れてたぜえ」という声が空に響いた。

「カッチ」

という音とともに東の空が明るくなりはじめた。

豊かな想像力

英語を習得するには想像力がものを言う。どう、試してみるかい？

「よし。やってみるよ。でも、僕は想像力があるほうじゃないから。」

結果は秘密にしてね」

うん。約束するよ。秘密にするよ。

その1. 次の英文の意味を想像してみよ。正解はあるからね。

He is an angel abroad, but a devil at home.

「うん。アブロードは外国の意味で、ホームは国内だから、外国ではエンジェル、人気があるけど、国内じゃデヴィル、悪人ってこと。つまり、最近(2017年12月) 恩赦を受けることになった南米の大統領のことかな」

ブー。違います。

「日本からメジャーリーグへ移籍した野球選手。日本では大暴れして、対戦チームからはデヴィルのように思われていたけど、メジャーでは借りてきた猫になっちゃった選手。いたなあ。高い契約金をもらって、誰だあ。そうそう元阪神タイガースにいたピッチャーの○○選手かな」

ブーブー。

「クソー、違うかあ。それじゃあ、ぶって所属を意味するから……、エンジェルスへ移籍した大谷翔平くん? 日本では二刀流で大活躍したの。対戦チームにとってはデヴィルでしょ」

またまたブー。発想を変えてみてよ。

「発想を変える? 外では、エンジェル、可愛いくて、家の中ではデヴィル、嫌われもの。蟻んこのことかな? これピンポンでしょ」

残念でした。ブーです。

「そっかあ。じゃあ外では、大人しくて、家の中では凶暴。うん、D V. 間違いないドメスティック・バイオレンスな夫のこと」

これまたブーブーです。

「もう、参ったよー。これ以上、想像できない」

じゃ、ヒントを出すね。この英文のような人のことを日本語3文字で表現して欲しい。

「えーっ。ヒントが日本語3文字で表現しろって? 余計に分からないよ。もう、参ったって」

しょうがない。正解を教えるよ。日本語で「内弁慶」です。

「へーっ。彼の名前はウチ・ベンケイさんかあ。英語でその人の性格を書くところなるんだ。なるほどねえ」

その2. じゃあ、次の英文の意味を想像してみよ。

She will be wearing the pants in the family.

「彼女は家族の中でパンツを穿くだろう」

うん。それは直訳だよ。意味を考えてよ。パンツは下着でもストラックスでもどちらでも意味は同じだから。

「パンツは誰でも穿くけど、主語がSheで、家族の中でってあるから、Sheが家族の中で何か特別な役割をしているのかな?」

かなりいい想像力だね。意識してみよ。

「家族の中の特別な存在だから……、ああ、そっかあ。彼女は世帯主です。世帯主で旦那や子供を養っているってこと」

うん。それをもうちょっと俗っぽく一言で。

「彼女は世帯主になるだろう」

残念! 正解は「妻が夫を尻に敷く」か「あ天下」です。

その3. 最後は次の英文です。

The cat is out of the bag.

(111)

「袋から猫が出てきた？」

直訳だとそれでいい。でも意味は違うよ。

「袋から突然、猫が飛び出してきて、人をびつくりさせることかな？」

うん。確かに、びつくりさせられることもあるとは思うけど。正

解は「秘密を漏らす」という意味です。

「そう言えば、猫って一匹狼で秘密を探る忍者とか隠密のような雰囲気を持つているよね」

そうだね。ここまで、よく頑張って想像したね。

「でも、これで僕の想像力はそれほど豊でないという秘密が暴露されたわけであらう」

心配しなくていいよ。最初に、誰にも漏らさないって約束したから (Keep a secret)。

死亡年月日

傘寿さんじゆになったばかりの妻はテーブルに書類を広げ、ボールペンを持つ手を止めて愚痴った。

「ああ。役所の書類って、なぜこんなに記入する項目が多いのかしら」
少し離れたソファでは、米寿べいじゆを迎える夫が新聞を読んでいる。

「めんどくさ〜い。あああ」

妻はまた溜息をこぼした。

夫は新聞から顔を上げ心配そうな声で妻に声をかけた。

「急ぐことはないんだろ？ 期限内に届け出ればいいんだろ？」

「そうなんだけどお、1カ所だけ記入できない項目があつて……どう
しても思い出せないのよ。どうしても」

夫は優しくアドバイスした。

「役所へ提出する書類なら、窓口で記入の仕方を教えてもらえばいい
じゃないか」

「そっかあ。役所だもんね。それが確実ね」

妻は満面の笑みを浮かべた。

そこへ息子が顔を出した。

「どうしたの？」

夫は眉間に皺を寄せて息子に答えた。

「お母さんが役所へ提出する書類で1カ所だけ記入できない項目があ
るって、悩んでいるのさ。お前、ちょっと見てあげろ」

「うん。どこ？」

息子は書類を覗き込んでから、顔を上げ父に言った。

「お母さん、大丈夫かなあ？ お父さんが亡くなった後にもらう遺族
年金の申請書を作成しているよ」

気分転換は？

男はミステリー小説を読むのが好きであった。仕事上のミスで上
司にネチネチとなじられた日の夜は、寝付かれず、チビリチビリと酒
を飲みながら殺人ミステリーを読み、ストレスやウサを晴らしていた。
ある夜、思いついて小説内の加害者の名前をすべて自分の名前に書き
換え、被害者に上司の名前を当てはめて読んでみた。なぜか気分がス
カットし、熟睡できるようになった。

そんな読書癖が身についた数カ月後、直属の上司がホテルの一室で
他殺体となつて発見された。警察の捜査の手は社内までおよんだ。

刑事の職務質問に対し、男はまるで読み終えたミステリー小説の種

明かしをするかのように、犯人像や、動機、犯行の手口などを推理し、能弁に語った。

男の話が展開するたびにメモを取る刑事の眼がキラッと光った。

カマキリ

うっかりカマキリを踏んづけてしまった。大きなカマキリだ。足の
下で腹が潰れ、その感触が脳ミソにまでのぼってきた。そっと足をど
けると、その身体から体液が出て、土に滲みていた。原型を留めため
ん玉をさらに突き出していった。

前足のカマをチヨキンチヨキンと動かして、カマキリは恨めしげに
私を見上げ、

「今夜、行くからな。きつと夢の中に……」
と告げているようだった。

恐妻家

議長 会議になると、彼は反論ばかりして、建設的ではないな。誰か、

あの口を塞げないか？

書記 分かりました。彼の奥さんに同席してもらいましょう。

チヨーザメ料理

1. めったに食べられない料理をご馳走してくれたけど、俺、味音痴
だからキョウザメ(興ざめ)しちゃったよ。

2. 温かくて、美味しい魚料理っていうから食べたけど、超冷め(チヨ

ウーサメ)てたよ。

迷惑？

— 金曜日の札幌駅地下鉄東豊線1番ホーム福住行。午後3時。
老若男女で大変な混雑をしている。

遅れてきた老人が訊ねます。

「何かあったのですか？ 今日はずいぶんと人出が多いですね」

中年のサラリーマン風の男性が答えます。

「1年ぶりに嵐が来るそうで、ここにいる皆は札幌ドームへ行くよう
ですよ」

それを聞いた老人は、さっと顔色を変えて呟いた。

「そうか。嵐か。避難場所がドームであれば、私も行こう」

自主性

空があるから鳥は飛べる、

海があるから魚は泳げる、

山があるから人は登れる、

道があるから人は歩ける、

じゃあ道がなければ……、

自分で造ろう。

感受性くらい自分で……

講義の内容が難しいことを

教員や学問のせいにするな
みずからすべき努力を怠っておいて。

定職に就けないことを

会社や社会のせいにするな

他人からの助言に耳をかさなかったのは誰だ。

初心を貫けなかったことを

親や暮らしのせいにするな

そもそもひ弱な志だったのだ。

ストレスの溜まることを

上司や組織のせいにするな

しなやかさを身につけなかったのは自分だ。

給料の安いことを

ぼやくな

その程度の仕事をしているのだから。

忙しいことを

口にするな

無駄な時間を節約しないでおいて。

他人に騙されたことを

悔しがるな

善人と悪人の識別もできなくせに。

うまくいかないことの一切を
他人に考えさせるな
自分の人生だろ。

自分の感受性くらい

自分で育て磨き守れ

このバカものが。

詩について

詩は理解できないよね。

だから1人ぼっちになって、自分の心を見つめるのさ。

秋

— 蟻あまごもンコを見なくなったね。

土中で冬籠りさ。

— 小春日和だね。

ええ？ ちょうちよが、フラフラと舞ってるよ。

蛾じゃないの。

— リスが忙しそうに動いているね。

焦ることないのね。

夫婦の距離

— 幅 1.5 m の食卓テーブルを挟んで座る夫婦。

新婚時代から子供たちが自立し家を出るまでは、この幅は短かった。

「お父さん、そんなに大声でしゃべらなくても十分に聞こえますから」

お互いに還暦を越える歳になると、幅はやや長くなる。

「お父さん、もう少し大きな声でしゃべってくださいな」

さらに歳を重ねると、もっと長くなる。右耳の後ろにメガホンのように掌をあて、顔をテーブルと平行にして、訊ねます。

「お父さん、いま、何んて言いましたか。エエ？」

さらに、さらに歳を重ねると、もっともつと長くなる。

「エエ？ 何ん、何んですか、何んて言ったのですか。もう 1 度、言つてくださいな」

昔も今もテーブルの幅は 1.5 m のままであるが、相手への距離は伸びるばかりです。

さんま、さんま

さんま、さんま、苦いか？ 塩っぱいか？

さんま、さんま、目黒に限るか？

さんま、さんま、明石家か？

さんま、さんま、桂歌丸か？

さんま、さんま、ジャックナイフか？

さんま、さんま、豊漁か不漁か？

さんま、さんま、巨大なイワシか？

さんま、さんま、脂はのつているか？

さんま、さんま、水揚げはどこか？

さんま、さんま、2 匹を十字にすればプロペラか？

さんま、さんま、ダーツの矢か？

さんま、さんま、骨も食べるか？

さんま、さんま、炭焼きか？

さんま、さんま、刺し身も美味しい。

嫌血、貧血、金欠？

少しは他人様のお役に立ちたいと、はりきって駅前に駐車している献血車のテントへ入った。看護師さんには、「そんなにはりきることはないですよ」と言われた。採血器の中にドス黒い自分の血が吸い込まれていくのを見ていると、脂汗が出てきて、何だか、ああ、気持ち悪いなあ、と思っているうちに、ス〜と意識がなくなつて、気を失っちゃった。それでエ、一度採血した血を入れ直してもらったら回復したの。看護師さんが、「大丈夫ですかあつて」、本当は 1 パックなのだけど 2 パックも牛乳をもらっちゃった。得しっちゃたア。

夫婦とは

仲のいい喧嘩友達、

たとえ喧嘩をしても土砂崩れの一步手前で止まる関係、

いずれは別れる友達、

本来、アンバランスな関係、

雨が降ろうが、風が吹こうが変わらない関係、空に太陽があるように同じ屋根の下にいる者同士、タイヤの空気が少々抜けていても動く自転車、いくら噛んでも味の尽きない食べ物、血の繋がりのない奇妙な関係、

うまく使えば、100年くらいもつ機械、頼っているのか、頼られているのか分からない関係、

多少の礼儀と大胆な暴挙が許される関係、

飽きたようで、飽きずにいられる関係、

他人が感じる互いの体臭に鈍感になる関係、

どちらかが先に老いる関係、

互いに気遣っているようでない関係、

そのうち身を持って余す関係、

黙っていても幸福を感じあえる関係、

胸が熱くなる瞬間を共有できる関係、

互いに相手のことを騙せない関係、

時間とともにお互いに驚くほど似かよってくる関係、

檻の中の動物のように、容易には逃げ出せない関係、

互いにその立場がぶくなる関係、

加齢とともに、互いに我儘わがままになる関係、

というように一生、互いに観察し合う関係、

でも離れると、とつてもとつてもくらくら寂しくなる関係。

だじゃれクイズ

宗谷岬にある都市の名前は何でしょう？ 「わっかんない（稚内）」

(一六)

「稚内」この漢字は何て読むでしょうか？ 「わからん」坂本龍馬が生まれた県は、この2つのうちどっちだと思う。「こつち（高知）」

平地しかないと思われている県は？ 「山なし（山梨）県」

美味しいお米ばかりを食べているので、他に何か違ったものを食べた

いという人が住んでいる県は？ 「あきた（秋田）県」

この県には温泉がたくさんあって、熱過ぎる湯に入ると思わず口に出

る言葉は？ 「おおいた（大分）」

市の名前が県名になっているのは？ 「しが（滋賀）県」

武士は食わねど、高楊枝たかようじつて県は？ 「みえ（三重）県」

校長先生の次に偉い先生が住む町は？ 「きょうと（京都）」

岬の遠い先の海上に見えるのは何？ 「しまね（島根）」

忘却も時間差

― 銀行の窓口で。

主婦 キャッシュカードの暗証番号を忘れてしまつて……。通帳は持

つてきたのですが、印鑑を持ってこなかったので、引き出しが

出来ないのですが。

行員 そうですか。では、登録したと思う暗証番号を幾つか言つてみ

てください。こちらで番号を確認しますので。

主婦 はい。1324、3454、7768、……。

行員 どれも違いますね。より確実性の高い番号をもう3回、言つて

みてください。

主婦 はい。じゃあ、1687。えいと、8612。それから、それ

から、えいと4418。

行員 違いますね。分かりました。お得意様ですので、新しくカードをお作りしましょう。

主婦 すみません。そうしていただくと助かります。

行員 では、この用紙のここに生年月日や自宅の電話番号など他人に

識別されやすい番号以外の 4 桁の暗証番号を記入してください

い。決して忘れない番号にしてくださいね。

主婦 はい。すみません。じゃあ、これでお願いします。

行員 はア。これは先ほど忘れられていた番号ですね。

断・捨・離

断 不要なものを持つことを断つ。

捨 家にある不要なものを捨てる。

離 物への執着から離れる。

寿司屋でネタしか食べない部下に「それじゃあ、刺し身じゃないか」と声をかけると「はい、断舍利(舍利・米の粒)です」と返された。

「儲けることばかり考えてちゃだめだ。商売は奉仕の精神が大事だよ」と後輩を指導すると「断射利(射利・金儲けのみを目当てにすること)のことですか」と訊き返された。

「この時代、1円も落ちてないよ。下ばかり向いて歩いてちゃだめだ。

断捨離(ダンシユウリ)でなくっちゃあ」

「捨てる」と「捨う」の字画。捨てるのになぜ2画多いのかな？」

旅の定義

永六輔氏によると、「旅行」とは、あらかじめ計画を立てて、出かけたらず帰ってくることである。一時的に非日常性を体験することである。「旅」とは、出かけた先で日常の生活を体験することである。この旅にも色々定義がある。

予定を決めず、「ちよつと行ってくるわ。じゃあなア」と家を出て行き先も決めず、自由に行動するのがジャーニー。旅の途中でトラブルに遭うのが嫌なときは、出発から帰宅までの行程を決めて行動するのがトラベル。ある集合場所で「こんつあ!」と言って、挨拶を交わした仲間たちと、ある特定の目的地へ出かける団体旅行がツアー。

そして、家の周りを散歩することも含めて気分転換をする小旅行がトリップである。

この分類で思い出した。49日の法要を「旅」立ちともいう。もうこの世へは帰ってこないという意味である。

(付記)永六輔、2014、「遠くへ行きたい」から40年「日本エッセイスト・クラブ編『人間はすごいな』文春文庫、18頁を参照した。)

DNA

「遺伝子検査で色々な能力を知ることができるそうだ」

「じゃあ、とびきり優秀な人間と、だ(D)め、に(N)んげんを、あ(A)つめることができるんだな」

食欲

「あゝ、2日酔い (hangover) がぬけないよ。食欲がなくて、昼食にハンバガー (hamburger) はおこいな」

肯定？ 否定？

私の郷里の言葉に肯・否定のいずれにもとれる言い方がありません。立看板「ここにゴミを放ほうんな（放るとは棄てることです）」最後の3文字を優しく読むと肯定形、怒りを込めて読むと否定形になります。

売れない小説家

― 白紙の履歴書を前に。
 夫 原稿が売れないから、バイトをしたいのだけど志望動機はどう書けばいいのかな？
 妻 適当に書けばいいのよ。
 夫 雇われるわけだから、いいかげんじゃ駄目だろ。
 妻 あなた。ウソを書くのは得意でしょ。
 夫 ウソは書けんよ。
 妻 だから、いつまでたっても売れないのよ。

親不知 (おやしらず)

― 特急列車にて。
 富山県から新潟県へ入った。子供が「お父さん、あの標識、何て読むの？」って訊きます。お父さんはしばらく考えてから「初めてみる漢字だ。分からん」と答えた。

― 歯医者にて。

医者 どうされました。
 患者 はい、右下の一番奥の歯が痛いのですが。
 医者 親不知だね。きつと。
 患者 いえ、ここへ来ることは母親に伝えましたが。

預金獲得戦略

〇〇銀行△△支店、営業課の××と申します。今日は新しい定期預金のお知らせに参りました。
 「うちは貧乏で余裕がないから他を回ってちょうだい」
 「あら、そう、何かしら」
 はい、金のなる木をお持ちしました。どうぞ。

簡単な方法

― タバコを止めたいと思うのだけど、何かいい方法はないかな？

「吸わなきやいいんだよ」

— 酒を止めようと思うのだけど、何かいい方法はないかな？
「飲まなきやいいのさ」

恩師は重い

若い頃、恩師の出版した書物を買ひ揃えた。すでに恩師も鬼籍に入られた。思い切って古書店へ持ち込んでみた。「この手のものは古くて引き取ってません」と、断られた。やはり恩師は重い。すべて書齋の本棚に戻った。

友人を売る

還暦を迎える友人が自費出版した分厚い定価 8000 円の書籍が恵贈されてきた。断捨離を実行中の私は古書店へ持ち込んだ。1000 円で売れた。心が痛い—。

変だろ

近所から子供の嬌声がする。男の子たちが道路で何やらして遊んでいるのだらう。近頃、この子供の声が騒音に聞こえる老人が増えているそう。子供の数が減って、その声をうるさがる老人が増えて……。

無駄な努力？

女房の自転車は旧式である。骨組みがすっかりしている。荷台にはカゴも付いている。そして重い。「トレーニングジムのエアロバイク(自転車コギ)に乗っているようだ」と愚痴って、今日もスーパーへ出かけた。でも、体型は「ドラえもん」のまんま。

解かっているのか？

学生 先生、内定をもらったんですけど別の会社を探します。
教員 どうして？ 希望する職種だし、会社だったんだろ？

学生 はい。でも、噂によるとブラック企業なんですって。残業が頻繁にあつて暗くなつてからじゃないと帰宅できないそうなんですよ。
教員 それはダークだ。

油と脂

教員 Aさんは今日も遅刻かい？ いつもどこで「油を売ってる」んだ。

学生 B えーッ。彼女、いつからガソリンスタンドでバイトを始めたんですか？

教員 止めよう、Aさんの話題は。ところでBさん、テキストの内容をだいたい理解できるようになったね。いまが旬で「脂が乗ってきた」って感じだ。いいね—。

学生B エッ。照かっていますか？ 今朝、お化粧する前に綺麗に拭き取ったんだけどお。

納まる所

学生 先生。ようやく民間企業から内定をもらいました。

教員 よかったね。おめでとう。これで安心して卒業できるな。業種は？

学生 卸売業です。でも、毎月20時間の固定残業はあるし、お得意さんへの夜の接待で週に3日は帰宅が午前様になるんですよ。こちらはサービス残業なんです。自腹も切ることがあるそうなので、就職しようか、どうか、迷っています。

教員 迷うことないだろ。これまで大学そつちのわけで、優先してやってきたスナックのアルバイトの延長と思えばいいじゃないか。

Fire ㄨ Hire

一字違いで泣いたり笑ったり。

カモ

外国人でしょうか？ 池に浮かぶ鳥に手招きをし、餌を撒いて、声をかけています。

「Come on!」

その程度でしょ

偏差値の低く過ぎる大学の学長は教育熱心にならざるをえないようです。教育改革に生かすという趣旨から学長自ら各科目の教室で講義を見学している。それだけ自由に使える時間が十分にあるということです。早い話が暇職かたしやくです。

受講生が8名しかない広すぎる教室の壁や黒板の上段には、「警告 携帯電話はマナーモードにしましょう。私語は厳禁です。他の受講生の邪魔にならないよう静かに受講するよう心がけましょう。学長×△×△」

という大きな貼り紙がしてある。ある講義が佳境にさしかかったとき、突然、携帯電話の着信音が進軍ラップのごとく鳴り響いた。集中力のない受講生たちはいっせいに最後列で見学をしている老人へ顔を向けた。老人は携帯電話を右耳から外すことはなかった。

脳の活性化法

女房は50歳の中頃になって精神的に落ち着き過ぎてしまったのか、歳の割には物忘れ、物覚えが悪くなってきた。きっと他人と会話をしないからであろう。

近所に姉夫婦と同居する母親は気苦労なことがあるとしばしば女房にグチを聞かせている。そんなときの女房は活き活きとしている。私は思う。

母親を我が家で面倒みれば一石二鳥かなと。

へび(蛇)

へびは人間のどこを狙ってくるのかな? スネーク(snake、脛く食う)。

このへびやろう。お前は毒をもっているのか? Yes. I ハブ (have)

It.

でも、お前、体が小さくて軽そうだな? No. I am (heavy) (ぐ)。

もういい、邪魔だから道をあけろ。Yes. I ドクロ (退く)。

大咳

客H 幕内力士が風邪を引いたってか? 休場か? どの番付だ?

客Y 大関よ。

口実のプレゼント

長女夫婦と同居している傘寿を超えた母親、先日、どこから風が吹いたのか長女からセータをプレゼントされた。どうやらデパートで買ったブランドものらしい。

「母は呆けてきた、呆けてきた」とぼやかれている長女からもらったセータ、粗末にできるわけがない。ましてや同居して初めてもらったプレゼントである。

ところが部屋を片づけた際、母親は「もうこの手のものは着ないだろう」と幾枚かの衣服を捨てた。後日、母親は思い出し、狼狽した。なんと捨てたもののなかに、あのセータが入っていたのである。まだ一度も袖に手を通していなかった。悩んだ末、末娘に相談した。

「呆けてきた、呆けてきた、と言われていたのだから、何か聞かれれば、物忘れがひどくなって、どこかへ仕舞い込んで、わからないって、答えておけばいいじゃない」

末娘は実にうまい口実をプレゼントしたものだ。感心、感心。

帰宅?

9月のお彼岸ともなると、つるありインゲンも葉っぱが茶色になって実をつけない。午前中、棚をはずした。竹竿に絡みついたツルを鋏で切り落とした。まだ残る青葉の上を緑色の2匹のアブラ虫が動いていた。これらは行き場所を失くしてしまったことだろう。

翌朝、玄関フードのドアを開けようとすると、丁度、目の高さのガラスに2匹のアブラ虫がへばり付いていた。

なっとく

——健康診断で医者から豆類は身体にいいという説明を受けた夫。帰宅するなり、「俺、今夜から毎晩、納豆食(なっとく)うから」と妻にリクエストした。

とんで(も)ない話

「世界陸上大会の走り幅跳びで80mの新記録が出た」という報道がありました。

確かですかね?

誤報だとしたら、と(跳)んで(も)ない話ですよ。

お互い様

老妻 ねエ、昨日の夜、何を食べたっけ？
 老夫 (怒気) おい、しっかりしろよ。いつもお前が作っているんだぞ。
 老妻 あなただだって、いつも食べてるんだから、しっかりしてよ。

はいかい

― 定年退職後、主人は俳諧を始めましてね。
 「あらア、まだ、お若いのに。そりゃあ、大変ですわね」
 ― 定年退職後、主人は徘徊を始めましてね。
 「あらア、いい趣味をお持ちですわね」
 ― 痴呆の症状が出始めた父親を探している娘さん。ときどき娘さんは「お父さん！ お父さん！」と呼びます。
 公園のベンチに座り、それを聴きつけた父親は「おゝい！ 何をうろろうろしているんだ。徘徊老人みたいじゃないか」と、娘に大声をかけた。

動物愛護フェスティバルの会場

― 可愛いプードルを乗せた乗用車が出口に停まり、せわしなくクラクションを数回鳴らした。
 その先には、年老いた大型犬が、ご主人様とはぐれてしまったのか、ヨタリヨタリと首を垂れて歩いていった。

(一一)

― 年老いた大型犬が会場内をヨタリヨタリと首を垂れて徘徊している。
 その飼い主であろうか、ご高齢のお爺さんがリードを持った手をだらしと下げて、あっちへうろろうろ、こっちへうろろうろしていた。

大学教員

君、この大学じゃあ、論文を書いても偉い人にはなれないよ。↓ 本務不詳ですな。
 大学教員はいいねエ。3日やったら辞められないよ。↓ 乞食ですか。

省きすぎ

師匠 いい文章とは無駄を省くことだ。もし、できるなら一綴りの言葉の中に、一切の表現、意味を含めてしまいなさい。
 弟子 はい、判りました。

「無」

権威とは？

普段、硬派で名の通った老学者が古本屋で大地震に遭った。老学者は大量の本の下敷きになって発見された。手にはエロ雑誌を握り締めていた。

女の疑惑

付き合いを始めて10日になるカップルがいます。男が女を献血に誘います。女は、注射針を刺されることが嫌で断固、拒否します。しかし、とうとう女は折れて、男と献血ルームへ入った。

目の前には貼り紙があった。次の5項目のいずれかに該当する方は献血できません。

不特定多数の異性と性的接触をもった方。

……

女性の方…妊娠中の方。

……

男の疑惑

女が男を献血に誘います。男は、注射針を刺されること、血を見るのが嫌で断固、拒否します。しかし、とうとう男は折れて、女と献血ルームへ入った。

目の前には貼り紙があった。次の5項目のいずれかに該当する方は献血できません。

不特定多数の異性と性的接触をもった方。

……

男性の方…男性と性的接触をもった方。
……

掟

きれいな血液はもらってくれませんが、少しでも汚れている可能性のある血液はあげたくてももらってくれない。

落ち目

俳優も落ち目になると廃油だな。

面食い

洋子 ねエ。この店ねえ、よく芸能人が来るそうよ。

春奈 ほんと、洋子は面食いだから。面ばかり良くてもすぐに飽きちゃうでしょ。

洋子 そういう春奈もお昼には蕎麦をよく食べてるじゃん。
春奈 ……?

洋子 あら、あの人、いま入ってきた男、俳優の○○△△じゃない？
かっこいい。あア、こっちくるよ。サインしてもらおうか、握手してもらおうか、あア、どうしよう？

春奈 何を面食らつてのよ、あんなの並じゃないの。

洋子 だから麺じゃなくて、カレーよ。ここは有名なカレー屋よ。

夫婦喧嘩

— 夫の対処法。

妻が専業主婦であれば、家政婦を雇っていると思えばいい。共働きであれば、もう一度、家庭内分業を見直せばいい。

未練？ 恨み？

若いときに、ふられた女ひとのことをときどき思い出す。きつとその女には思い出されてもいないだろうに……、あゝア。

文章読本

有名な作家が著した『文章読本』を読んでも、よく理解できない。有名な作家が著した『文章読本』の中に「自分は文章を語る資質をもたない」という言葉があった。有名な作家が著した『文章読本』はまるで評論のようだ。有名な作家が著した『文章読本』を読むと、文章が書けない気持ちにさせられる。

暇でストレスかよ？

夫 何をプリプリしてんだよ。

妻 ……。

夫 俺は仕事をして帰ってきたんだぞ。何か文句でもあるのか？ そ

(二四)

の膨ふくれ面つらは何だよ。お前は専業主婦だから、俺が職場で嫌なことにも我慢していることなど知らないだろ。俺が出勤した後、ノンビリしてりゃあいいからなあ、お前は。いいよな。

妻 何もすることがないから、あなたの言動にイライラするのよ。

夫 ……？

エロ、テロ：イスト

毎夜、毎夜、夫の要求に堪えかねた新妻が、「あなたはエロイストね。これじゃ身体がもたないわ」と、呟つぶやきます。

夫は「そんなに超過激か」と、返す。

立場の違い

— 還暦を迎えた父親が歯の治療を始めた。

「今、治療をしておけば、100歳までもつだろう」
介護士の娘が答えます。

「寝たきりになられると、介護する者にとっては入れ歯にしてくれると楽やすだけどねエ」

まる損

昔、4人の浮浪者がいた。死ぬ前に1度でいいから、腹一杯ご馳走を食べてみたいと思っていた。思えば思うほど、胃の収縮は激しくなる。何とかご馳走にありつくための金を入手できないだろうか、と頭を揃そろえて思案する。

とそのうちの1人がとにかくレストランへ入ってから考えよう、と言い出した。そこで4人は、これが最後の晚餐とばかりにたらふく飲み食いした。そうして愉快な至福のときを過ごした後、代金をウエイトレスに尋ねると、総額7万円であった。

それを聞いた1番目の男が「自分が支払う」と言った。次に2番目の男が「それは困る。ここは自分が支払う」と言い張った。すると3番目の男が「駄目だ。今日は自分が支払う」と後に引かない。今度は4番目の男が「みんな、それでは駄目だ。自分が支払うから」と口を出した。

このやり取りを店主は厨房の陰から盗み見していた。こうして長い間、果てしなくお互いに口論のごとく言い争っていたが、とうとう1人の男がこう提案した。

「よし。みんな、こうしよう。ウエイトレスに目隠しをして、彼女に捕まった人が支払うことにしよう」

代金を支払って欲しいウエイトレスはしぶしぶ承知した。そして4人はウエイトレスにきつく目隠しをすると、すぐに外へ飛び出し、一斉に走り出した。

ウエイトレスはテーブルの間をそろりそろりと歩き回りながら男たちを捜しますが、誰1人として捕まらなかった。ちょうどそこへ厨房から店主が入ってきたので、ウエイトレスは店主を捕まえて「さあ、あなたが支払いなさい」と語気を強めた。

店主は、

「そうだ。支払うのは私だ。バカなウエイトレスを雇った私の責任だ」と、目隠しをはずしたウエイトレスを睨み付けた。

悔しくてならない店主はその日から街中を歩き、あの浮浪者たちを捜して回った。その介あって、店主はひょっこり浮浪者の1人に出会

った。そして声をかけた。

「いつぞやのお客さん、飲み食いした代金のことを覚えてるでしょ。まだ支払ってもらっていません。食い逃げですよ。ここで支払ってもらいましょうか。はッ」

男は言い返した。

「もう、あの仲間たちとは付き合っていないせん」

「そんなことは私の知ったことじゃない。代金を支払ってくれさえすれば、いいのですよ。延滞金や利息などは要求しませんがね」

店主は疑心に充ちた目をして言った。

「が、どうしても支払いそうにない男を見て店主はなけば本気で脅した。

「じゃあ、出る所へ出て判断してもらいましょう。そう、裁判所でケリを付けましょうや」

「裁判所といわれても、私はこのとおりみすぼらしい服装なりをしています。こんなボロのまま裁判官様の前へ出ることはできません。はい」

こう男が弁明すると、店主は言い放った。

「服くらいお安いごようだ。私のジャケットを貸してやるさ」

こうして男と店主は裁判官の前に並んだ。

裁判官は店主の訴えを確認した後、男に尋ねた。

「訴えの内容に対して、何か陳述したいことはありませんか？」

「はい、裁判官様、私は誰に対しても1円たりとも借金はしておりません。もし、このジャケットを店主が自分のものだと言ったら、裁判官様はこの人の言うことを信用なさいますか？」

これを聞いてすぐさま店主は言い返した。

「もちろん、そのジャケットも私のものです。裁判官様の前へ出るのにボロではいけないというので、私が貸してやったものですかね。」

さあ、脱いで、こちらに寄せ」

「静かにしてください」

裁判官は兩人を制してから、判決を言い渡した。

「店主、あなたは被告が飲食の代金を支払わなかったことを私に信じさせようとしているし、またジャケットさえも貸したものだと言って私を信じ込ませようとしていますね。これは許しがたいことです。人を身なりで評価するのは良くないことです。さあ、もうお帰りください。これにて閉廷します」

〔付記。エスピノーサ、三原幸久編訳、2010、「60 4人の学生」『スペイン民話集』ワイド版岩波文庫、269〜276頁から翻案した。〕

大きな嘘

カエルが池の縁で小さな昆虫を獲って食べていた。そこへ蛇がやってきて、カエルを飲み込もうとした。

カエルは蛇に気づいて、睨まれる前に池に飛び込み、蓮の葉陰に隠れた。蛇はキョロキョロとカエルを探して、言った。

「そんなに驚くことはないよ。みんな生き物じゃないか。仲良く暮らせというお釈迦様のお触れが出たことを君に知らせに来たのだよ。隠れてないで、こっちへおいでよ」

そのとき、蛇が振り返ると、むこうからマングースがやってくるのが見えた。

そこで蛇はカエルに声をかけた。

「自分は今もう行くよ。だって、マングースの野郎はお釈迦様のお触れのことをよく理解していないからな」

〔付記。エスピノーサ（三原幸久編訳）、2010「69 平和のお触れ」『ス

スペイン民話集』ワイド版岩波文庫、303頁から翻案した。)

猫いらず

猫いらずを喰ってしまった猫、その日から鼠と仲良しになりました。

およびじゃない

エビで鯛を釣るつもりが、蛸が釣れた。すぐにリリースされた。

マグロの気持ち

――鯛いわしと間違えて、擬餌針ぎじばりを飲み込んで釣り上げられたマグロが漁師に毒づきます。

「うまく騙したな。丸儲けじゃないか。せめて解体される前に本物を喰いたかったぜ」

――漁師さんよ、擬餌針で騙しやがったな。解体する前に烏賊いか、秋刀魚さんま、鰯あじ、鯛、どれでもいいから本物を喰わせてくれ。最後の晩餐がしたい！

断食の決意

ただ、自分の舌にあう食べ物を見つけれなかっただけのことです。

自力本願

— ロビンソン・クルーソーが孤島で生き延びられた理由。助けを求めたり、誰かに頼ったのではなく、自分で生き抜くための行動をとったからです。また、その行動を楽しんだからです。

見る目が変わります

『変身』の作家である(フランツ・)カフカはチェコ語 (Kavka) でカラスを意味するそうです。ゴミ箱を漁っている黒いヤツが立派に見えます。

Noと

定期試験前、大事な講義ノートを貸してくれと頼まれても「No」と答えよう。

アベノミクス

— 聴力が弱くなったお爺ちゃん。首相に対して、「だらしなない！ たるんどる！」と、息巻いています。その理由を訊くと、最近、「安倍呑み助」という言葉を頻繁に耳にするそうです。

あの世では騙せない

— 生前、オレオレ詐欺を繰り返し、逮捕された男が天国の入口に着いた。

が、地獄へ送られることになった。入国審査時に、本名ではなくオレオレと言ってしまったそうです。

— 生前、オレオレ詐欺を繰り返し、逮捕された男が三途の河の舟頭に頼んだ。

天国へ行きたいので名義を貸してくれませんか、と。

— 生前、オレオレ詐欺を繰り返し、逮捕された男が三途の河を渡る舟賃のお釣りを受け取った。

もう使うあてのない釣銭です。男が思案していると、舟頭は「レターパックで現金は送れませんよ」と、諭した。

場所を選ぼう

生前、ガーディニングに熱心であった男が、天国の入口に着いた。入国審査時に内をちよつと覗いてみた。

自信たっぷり「自分の花壇がもっと綺麗だった！」と叫んでしまった。そのため地獄へ回されたそうです。

趣味

— 自殺した男が生き返った。
その理由を訊くと、三途の河を渡る舟に乗ろうとしたとき、釣り竿を持ってくるのを忘れ、取りに戻ったそうです。

渡し舟

— 男は借金を苦に自殺をしたが死にきれなかった。
その理由を訊くと、三途の河の舟頭に「借金を完済してから来い」と怒鳴られたそうです。

— 男は借金を苦に自殺をしたが死にきれなかった。
その理由を訊くと、三途の河を渡る舟賃が払えなかったそうです。

油断は禁物

スキーの初心者、ゲレンデでは怪我をすることなく滑降を楽しんだ。
が、露天風呂の入口でみごとに滑って捻挫した。

酒は初心者です

部下が20歳になった。そのお祝いをしようと、上司がスナックへ連れていった。初めてアルコールを口にするであろう、初心うぶな部下に「ウイスキー、何で割る」と上司が尋ねた。

(二八)

部下は「金槌かなづちでも、あるんですか」と訊き返した。

人物評価

— 学歴、職歴だけを記す履歴書では、その人物を十分に評価できない。
病歴、おねしょ歴、いたずら歴、貧乏歴、失恋歴、学校の欠席歴、被補導歴、被災難歴、運動会での成績歴、読書歴、三日坊主歴、信号無視歴、何かへの挑戦歴、その成功歴・失敗歴、自転車のパンク歴・被盜難歴、蹴躓いた歴、酒乱歴、借金歴、貸金歴、キャッシュカードの暗証番号忘れ歴、電車内へ傘の置き忘れ歴、電車の乗り過ごし歴、トイレで使う紙の長さ、排便にかかる平均時間、「自己推薦による……歴」なども提出させるべきである。これらが公平な判断材料になるでしょう。

地球の回転スピード

— 大晦日に年越しソバを食べ、その意味を教えられた幼児。
年明けの4日にも夕食にソバを食べた。

「年越しソバだね。明日はまたお年玉をもらえる！ ヤッター！」

おみくじ

— 大凶を引いてしまっても、落ち込むことはない。
むしろ、それを引き当てた自分の勘のすごさ、引き当てた確率のすごさに感動しましょう。そして、引き当てたという幸運をこれからの人生に活かしましょう。

イサン過多

定年退職が近くなった。子供も巣立った。老後の生活設計をしなければならぬ。年金だけでは、これまでの生活水準は維持できず、貯金を取り崩さなければならぬ。

そこで長年、妻に家計を任せてきた夫が訊ねます。

「わが家の預貯金はいくらくらいあるのかな？」

妻は数冊の預金通帳をテーブルに広げ、「これくらいよ」と合計金額を打ち出した電卓を夫にかざした。家のローンや子供たちの教育費にかなり出費し、貯金は夫が予想した金額ほどはなかった。

夫は「これじゃあ、年金と貯金でぎりぎりの生活しかできないな。医者にもかかれんぞ」とこぼす。決して気丈でない夫はしばらくすると胃の調子が良くない、と言って寝てしまいます。予想外に少ない貯金額のショックを小さくデリケートな胃がすべて吸収しようとしたからです。

翌日も胃痛は治まらず、夫は玄関先で女房に「貯金、少ないよな」と毒づき、病院へ行った。

検査後、医者は、「胃酸過多ですね。しばらくすれば治まりますよ」と説明した。

夫は「いえ、少なすぎるのですよ」と答えた。

すぐさま、医者は怪訝な表情をして「胃酸が多く出過ぎているのですよ」と説明を補足した。

「そうです。これまでの出費が過ぎたのです」と夫は納得顔で答えた。

A、B、C、D

昔はドーナツレコードでA面が終ると、ひっくり返してB面を聴いた。今は？ 面のみでCDになった。

笑合わふく

―― 正月。振袖姿の女性アナウンサー。

夫 あゝア、和服もいいなア。あゝア。

妻 お父さん、何を考えているの？

夫 ふっふっつと含み笑いをした。

年賀状

正月も3日目、なぜか回収率が気になり始める。

不安の先物買い

―― 結婚してすぐに新婦は風邪をこじらせ寝込んでしまった。

夫は、「俺がお粥を作ってるから、ゆっくり寝てろ、寝てろ」と優しい。

妻は「美味しい、美味しい」を連発した。

熱も下がり、新婦が作ってくれた料理を食べながら、夫は何か負わなくてもいい責任を負った気がした。

未と末の違い

— 未成年生まれの人には未来がある、と覚えるといいよ。
木の幹の先っぽをイメージするといいいよ。まだまだ、伸びるって感じかな。

総口撃

— 会議が予定の閉会時刻をはるかにオーバーしても終わらない。
出席者たちは議長に向っていつせいに大口を開け、アクビをした。
すぐに、議長は閉会を宣言した。

年始の抱負

— 皺。
どちらか選べと言われれば、眉間の皺よりも目尻の皺が増える年にな
って欲しい。

厄祓い

— 迷い始め。
元旦、朝刊に2つの神社のお祓い日時と料金を案内する折り込み広告
が入っていた。厄年である夫は、広告を見比べて、「どちらの神社で
お祓いしてもらおうか」と思案していた。
おもわず、妻は「迷い始めね」と声をかけ、受験生の娘は「そんなこ

(三〇)

とで迷わないでよね」と父親を睨んだ。

— 判断基準。

「こっちの神社が1000円安いぞ！」と、夫が喜声を上げた。
「その分、ご利益が少ないかもよ」と、娘はあきれた声を返した。

元旦

朝、お神酒、清水とお雑煮を神棚に祀り、お屠蘇を飲み、おせち料理
を食べた。用意されたお屠蘇が尽きたとき、旦那の目は神棚に向いて
いた。

借り始め

— 初詣。

財布を忘れて、お賽銭を女房に借りた。お御籤を買うお金も借りた。

— 聞き耳を立てる神様。

社殿の前で「お賽銭が先なの？ ガラガラ鈴を鳴らすのが先なの？
どっち？」と幼児が父親に尋ねます。父親が答えを思案していると、
前方の奥から、「お賽銭だよ」と言う声が出た。

(付記。正解は、まず、お辞儀をし、鈴を鳴らし、お賽銭を入れる。次に、
二礼二拍手一札をします。)

秘策

蚤の心臓しか持たない関脇は明日の横綱戦に備えて秘策を練った。これまでの対戦成績は0勝16敗であった。いつものように横綱は俺の動きを止めにくるだろう。まわしを取られると、まず勝ち目はない。一度くらいは金星を取りたい。でも、うくん。組まれたとして、どう対処すべきか？ うくん。横綱が絶対に組みたくないという策はないかな？ 前へ出てこれない策は？ 腕組みをして小首を傾げ、一生懸命、考えた。唸った。うくん、うくん、ピンポーン！ と閃いた。

関脇は財布に万札を数10枚ねじ込み、デパートの輸入食品売り場へと急行した。そこに並んでいるスウェーデン産シユール・ストレミング、韓国産ホンオ・フェ、ニュージーランド産エピキュアーチーズなどを手当たりしだい、カゴに詰めた。が血走った両眼はこれにとどまらず、カナディアン・イヌイットの好物キビヤック、新島産や八丈島産の焼く前のくさや、近江産の鮎鮓、納豆まで買い込んだ。これらは悪臭を放つ食品のベスト8に入るものであった。財布はすっかりぺちゃんこになってしまった。

そして、翌朝も昼もちゃんこは食わずに、ひたすら、これらの臭物を胃袋に落とし込んだ。もちろん、歯磨きもせず、朝稽古の後の風呂にも入らず、鬢付け油も安物のポマードを塗ってもらった。

さて、支度部屋から土俵下へ向う関脇の周りに異様な悪臭が漂っていた。それは関脇の動きとともに移動した。土俵下に座った関脇の周りのお客は、鼻をつまむやら、扇子で悪臭を払うわで、土俵に集中できないありさまだった。向かいに座る横綱さえ、顔を歪めたままだった。この悪臭はどこからくるのか、と。

いよいよ、横綱との対戦です。行事の「はっけよい」の掛け声とともに、軍配が返りました。横綱はさっと関脇の前禪を掴んでぐんぐん前へ出てきます。悪臭をものもしないさすがに横綱相撲です。一気に押された関脇の両足が俵に乗り、腰が伸び、横綱の顔と関脇の顔が対峙しました。息の上がつた関脇は最後の息を大きく吐きました。この息をまともにかつ過度に吸い込んでしまった横綱は中枢神経が麻痺したようで、その場に腰から崩れ落ちました。何とか、持ちこたえた関脇は大金星を手に入れた瞬間でした。

勝ち名乗りを受ける関脇に向って場内からは、座布団とともに「歯を磨け！ 風呂に入れ！ 体臭・口臭止めをしろ！ 臭いまねは止めろ！」というヤジが飛び交いました。でも、勝ちます。関脇は出費を補って余りあるほど懸賞金をもらったそうです。

口臭、体臭を味方につける

―― ボクシング。チャンピオンが連続防衛に成功し、ヒーローインタビューを受ける。

会 (腕で鼻を押さえながら……) チャンピオン！ 今日
は苦しい展開だったと思います。いつもよりクリンチ
でかわす場面が多かったようですが。勝因はどこにあ
ったのでしょうか？

チャンピオン 俺がいつも勝てるのは、国民、いや口臭を味方につけてるからさ。俺は勝つ運命にあるんだ。口臭のヒーローだからよ。口臭のおかげさ。

司 会 (さらに強く腕で鼻を押さえ) それも言うならファンとか大衆じゃあないです？ クリッチではチャレンジ

ヤーはしきりにクロープで鼻を押さえていたようすが？ 鼻へのパンチが効いてたのでしょうか？

チャンピオン ……？

— 負けたチャレンジャーはこれを聞いて、一言、呟いた。試合には勝って、あいつの口臭や体臭に負けたんだ。人間離れた臭さだったぜ。リベンジしたくもないぜ。

視力検査

— ピカピカの小学1年生がメガネを作るためにメガネ屋さんで視力検査を受けます。

店員 おばさんが指すヒラガナを順番に読んでね。

小学生 は〜い。

店員 まず、これは、どう、見える？ 大きいから読めるかな？

小学生 「た」「か」だよ。

店員 やった！ すごいじゃん。じゃあ、これは。

小学生 「く」と「て」だ。

店員 次はちよつと小さいぞ。3つ読んでみよう。これとこれと、これはどうかな？

小学生 「も」「お」と「か」かな？

店員 いいぞ！ 読めたね。これはどう。頑張れ！

小学生 小さくて見えない。

店員 そうねえ。じゃあこれだ！ ちよつと大きくなったから、見える？ 読める？

小学生 「ね」でしょ。それと「を」かな？ きつと。

店員 そう、すごいじゃん。よく読めたね。次はこれに挑戦だ！

(一一一)

小学生 「は」「ら」

店員 これも読めたね。また、ちよつと小さいよ。頑張つて！

小学生 う〜ん「い」かな。それと「ま」だね。

店員 そう、正解！ やったね！ いいよこれで最後だよ。この2つ読める？ うんと小さいけど、読んで欲しいな。

小学生 「す」「よ」

店員 は〜い！ 全部、読めたね。大丈夫だよ。うんと悪くはないよ。良かったね。

好事魔多し

あるお笑い芸人、その芸風が人気を博し、テレビ番組への出演回数もうなぎ登りに増えていた。よく言う大ブレイク中であった。レギュラー番組の終了後、打ち上げでスタッフとともに、飲み屋へ行った。そこで、酔っ払って絡んでくる売れない後輩芸人に対して傷害事件を起こしてしまった。その後、テレビから彼の姿は消えた。まさに、そのとき彼は急ブレーキを踏んでしまったのだ。

最臭兵器

かつて、アンドレ・ザ・ジャイアントという名前のプロレスラーがいた。彼は、身長も体重も、そしてウンチの量もジャイアント馬場を上回っていたそうだ。試合中、形勢が不利になるとみるや、彼はしばしば最臭兵器をコイタ。

「オナラだあ！」

その悪臭はリングサイドの客をも地獄へ落とすほどだったそうです。

(付記。京都ではウンチのことをババと呼ぶことがあります。)

論文審査

人の首を切るようで、背筋がゾツとする。

道とは

「自分で切り開いた」と、豪語するな。
そこを他人が通って道になる。

強がり

身なりが何だ！
幕末の志士たちを見よ。
どれもこれもチンピラ風ではないか。

オッパイ

オッパイを飲んで、赤ちゃんがスヤスヤと寝ている。
ときどき、にっこにっこすることする。
はじめての快感を思い出すかのように。

有り難味

自転車の後輪がパンクした。

修理店へ押して行った。
重かった。

さあ、どっち

幼 児 なぜ、小母さんのお腹は大きいの？ 太っているの？
小母さん T それはねえ。子供たちに与える愛情が一杯詰まっている
からなのよ。

小母さん M それはねえ。旦那さんへの不満を口にできなくて、お腹
に溜め込んだからなのよ。

ものは考えよう

専業主婦は飯を炊き、洗濯をし、風呂に湯を溜めるのみ。
家政婦を雇っていると思えば、腹も立たない。
他に、何かをしようとしなのだから。

読書

超売れっ子の作家は飯の種として本を読む。
その女房は時間潰しに本を読む。

満足音

すき腹に冷蔵庫のペットボトルの透明な水を喉に流し込んだ。

冷えた液体に刺激されて、胃がぎゅるぎゅると音をたてた。胃が「美味かった」と叫んでいるようだった。

ストレスの解消法

「この食器棚にあるもののうち、お前のお気に入りをベスト3はどれだと旦那が女房に訊いた。

夫婦喧嘩をするたびに、旦那はベスト3、ベスト2、ベスト1の順番で庭石にぶつけて割った。行き違いの愛情の代償として、そこからくるストレスの解消法として、多くの物品が原形を失くした。

壁はドア

自分を閉じ込めていると思っていた壁は、世界へとつながるドアだった。

一端、開けると、眩しい光や爽やかな風が流れ込んできた。

プレゼント

人柄が出ます。

贈られた物に喜ぶ人、贈ってくれた人の心根を思い遣る人。

熊に遭遇したとき

慌てずに、熊の目を睨みつけ、ただただ耐えよう。きつと、勝てます。

(三四)

理系女

女 もう、別れましょ。あなたから私の心までは、地球から太陽までの距離1億5千万キロメートルよりも離れているのよ。もう諦めてちょうだい。今も私の心は光速でぐんぐん、あなたから離れているから。

男 それでも時速25キロメートルで走れば、追いつけるかな？

(付記。丸井諒子、2013、「ひきだしに テラリウム」イーストプレス、3月より一部を翻案した。)

違います

蕎麦屋のメニューに『店主敬白。当店の蕎麦は……』という紹介文を見つけた小学生が父親に尋ねます。

「お父さん、この最初の4文字は何て読むの？」

「ていしゅけいはく」

「ふくん。軽はずみな気持ちからお店を始めたんだ……」

読み方

麦酒と書いて、ビールと読む。

じゃあ、火酒、焼酒と書いて、何て読むのかな？

国際収支

日本文化は大幅な黒字（輸出超過）。
外来語は大幅な累積赤字（輸入超過）です。

耳の蓋

目には蓋があるので、嫌なものを見たくなければ、目蓋を閉じればよい。
耳には蓋がない。聞きたくないことでも蓋をできない。耳に蓋をする
勇氣、心がけは目を閉じるよりも大変なことだ。

皺しわの独り言

皺は生きてきたことの証です。
目尻の皺は、これまでたくさん笑ったことの証です。
額の皺は、恐い顔して真剣に物事を考えてきたことの証です。
口の周りの皺は困難に負けないぞ、という強い意志で奥歯を噛みしめ
てきたことの証です。

野花の独り言

誰かに見てもらうために、咲いているのじゃない。
自分のために季節を忘れずに咲いているだけです。

雑草の怒り

雑草と呼ぶヤツはこの誰だ！
俺たちはみんな名前を持っている。
あんたらが無知なだけだ。

ことわざ

ある男の子が、「大阪の食い（杭）倒れ」、「京の着（木）倒れ」とい
う大人の会話を聞いた。
男の子は呟いた。

「関西に台風が上陸したんか？」

一字違いの大きな違い

Need（ニート）の若者も、わずかな違いが必要（Need）な人材になる。

返事は俳句（5・7・5）で

スーパーで買物をする時、夫はいつもバックにすべての食品を詰めて、
背負って帰ってくれる。
最近、その夫は俳句にこり始めた。私よりも3歩ほど先を行く夫は右
手の指を折っては開き、開いては折っている。後ろから、「また、俳
句を削っているの？」と訊ねると、振り向いて、「手ぶらだろ よそ
見しないで 早く来い」と、返された。

好き嫌い

活字好きの人には名文でも、嫌いな人には迷文となる。

加齢の証拠

— お父さんの書棚。
健康や病気のタイトルの付いた本が増えていく。

賞金

夫は新聞への投稿が受理されて、図書カードをもらった。
妻が「いくら、もらったの？」と訊くと、「小金だよ」と答えた。

歯の音

入れ歯にしたばかりのおじいちゃんが孫娘に話しかけます。
しゃべるたびにカタカタという音がします。
孫は「おじいちゃんのお口、カスタネットみたい」と、じつと口元を
見えています。

小休止

今夜、食うから、コンニャク。
誰もが飲むので、ウイスキー。

いつも飲むのは焼酎。

略語と人生

— 世の中、言葉を縮めることが大流行である。
就活、死活、自活、婚活、妊活、終活。このうち、どれが略語じゃないのかな？

— 人生行路。

大学を卒業して、正社員になるための就活は人生の第一歩である。これが上手いかないと自活もできない。就活を死活問題と捉える学生もいるが、もっと大変なことがある。人生のパートナーと出逢う婚活である。たとえ、これが上手いとしても、子供を授かる、授からないで妊活に励む夫婦もいる。そして、最後は、また終活に戻る。

もう一つの格差社会

— 散歩途中の犬を見れば、飼主の懐具合が分かります。
その1. 冬になると、貧富の差が現れます。
散歩途中、2匹の小犬が歩道で遭遇しました。一方は暖かそうな胴巻きを着せてもらっています。もう片方は純毛です。

その2. 冬になると、犬も散歩中は服を着せてもらえます。服というよりも胴巻きでしょうか。

散歩途中、2匹の小犬が歩道で遭遇しました。片方の小犬がやけにもう一方にキバを剥いてカミツこうとしています。ルールを持つ飼い主

「私たちは「あらあら、ダメですよ」と、なだめています。よく見ると、キバを剥いている方は、震えながら相手の胴巻きを狙っています。その小犬は純毛でした。」

その3. 冬になると、犬も散歩中は服を着せてもらえます。服というよりも胴巻きでしょうか。

散歩途中、2匹の小犬が歩道で遭遇しました。胴巻きを見れば、どちらの飼主が裕福なのか、分かります。

どちらも意味が違います

— 認知症予防相談案内パンフレット。

「講師紹介欄 本日の講師は認知症の研究で第一人者の〇〇教授です。」

市民A 1人しか来ないのかな？

市民B 独身なのかな？

いわせて もらいます

朝日新聞の土曜日版に「いわせて もらお」という投稿コーナーがある。あれって、中身からすると、もしかして、ショート・ショート、いやショート・チョットじゃないの？

ドキドキ

— 病院での精密検査後。

医者がこちらに顔を向けずに説明するとき。医者から知らない病名の可能性を示唆されるとき。文学好きの医者からサルトルの『嘔吐』を読むよう勧められたとき。

悩みの解消

相談者 便秘を治す方法を教えてください。

回答者 下らんのう。

相談者 酔っ払うと、電柱に放尿するクセがあるんです。

回答者 犬に謝りなさい。

相談者 草食系ってバカにされます。

回答者 像を見習いなさい。

相談者 まだ鯛を釣ったことがあります。

回答者 魚屋で買えばいい。

相談者 朝寝坊のクセが治りません。

回答者 ずっと起きていなさい。

相談者 どうも牛乳が飲めません。

回答者 搾ったオッパイと思えばいい。

相談者 どうも牛乳が飲めません。

回答者 哺乳瓶に入れて飲みなさい。

相談者 結婚直前に、彼女が風俗店でバイトしていたことが分かりました。

回答者 ウルトラサービスを期待すればいい。

相談者 恋愛の基本は何でしょうか。

回答者 一目惚れです。

相談者 人間はなぜ嫌なことを先送りするのでしょうか。

回答者 後で仕方なしにやっているだけです。

相談者 うちの子、他の子たちとは変わっているんです。

回答者 それがお子さんの個性です。

相談者 人間の社会に小説は必要でしょうか。

回答者 小説のない社会を想像してみてください。

相談者 よく亡父の夢をみるのですが。

回答者 私もです。

相談者 朝早く、眼が覚めるようになったのですが。

回答者 歳をとったからです。

子狸のバケ比べ

— 人間が好きなお札にバケてみよう。
たぬ吉 ドロン、はい。10,000円。

(三八)

たぬ子 ドロン、はい。1,000,000,000,000円。

たぬ吉 たぬ子ちゃん、1,000,000,000,000円というお札はないよ。

たぬ子 だって、両目でしょ、両耳でしょ、鼻でしょ、口でしょ。

それにお尻と…でしょ。

・の数

小説の中で、「彼の意見には賛成だが…」という文章に出くわすことがある。

判らないのは、この…である。これは・の数によって、呼び方が違う。6個や3個であればテンテン、9個であればテンセンと呼ぶ。話題をかわしたり、言いさしてやめたり、相手に考えさせる場合に使うようだ。私が判らないのは、・の数の使い方である。6個であれば、その数だけ言葉を想像しろ、ということか？ そんなに上手く6文字で表現できる感情や言葉などそうめったにないだろう、と思うのであるが…（どうなのかな）。

どこまでも夢？

俺はある文芸雑誌のショート・ショート賞へ投稿を続けてきた。ありがたいことに、この賞は毎月、原稿を受付けてくれて、選考もしてくれる。選者は1名で俺の憧れの超有名な作家である。俺は、この選者のあらゆる著作を読み、好みの文章、文体も研究した。また毎月、5編の入賞作品のコピーを取り、欠かさず読み、受賞の傾向と対策を練ってきた。

ワープロ原稿2000字以内。これが書けそうでなかなか上手くは書けない。毎月、原稿を送付する切手代もバカにならない。

日曜日の午後、俺は近所の図書館で最新号の雑誌を手に取り、陽が射し込む窓際のテーブルに座り、急いで入賞作品の載っているページを開いた。

あつた、あつた！ 俺の投稿した原稿「夢はかなう」が綺麗な活字となつて掲載されていた。俺は頭が天井をぶち抜くくらい飛び上がりたい気分であつた。誰かに思いつきり、この幸せビームを発射したい気分であつた。

ようやく落ち着きを取り戻した俺は、次に選者評欄へ目をやった。読もうとしたそのとき、「キンコンカンコーン、キンコンカンコーン。ご利用の皆様、当館は後10分で閉館します」というアナウンスが鼓膜に響いた。

「あゝあゝあゝ」

俺は雑誌に左頬を乗せたまま寝込んでいたようだ。顔を上げると、頬にくっ付いた雑誌の表紙が大きく欠伸をするように開いた。雑誌は先月号であつた。

どこか、遠くへ行きたい

――妻と口喧嘩をした。

その後、いつものように散歩に出た。

どこまでも、どこまでも、歩いて行けそうな気分だつた。

フライパン

――快く夫婦喧嘩の犠牲になるもの。

まず、台拭きが投げられた。

湯飲みが投げられた。

茶碗が投げられた。

箸もヤカンも投げられた。

重い鍋までも投げられた。

みんな無残にも悲鳴をあげて床に落ちた。

そんな中で愉快に投げられるものがあつた。

「わあゝい、もつともつと遠くまで投げてよゝ」

それはフライパン（＝フライングパン＝flying pan）であつた。

素直？

入社して2年目の若い男性社員。午前中から緊張感のないミスを繰り返している。たまらず社長が男性社員の顔を睨みつけて、一喝した。

「顔を洗って出直して来い！」

そう言われると、社員はそそくさと退社した。

社長が秘書に訊いた。

「彼はなぜ早退したんだ。まだ、昼飯前だぞ」

「社長の一言が効いたのかもしれませんがねえ」

「なに？ ハッパをかけたただけじゃないか？」

翌朝、男性社員は何食わぬ涼しい顔で入社してきた。

社長は怒りを抑えて訊いた。

「昨日、なぜ早退したの？ 特別な急用でもあったのかね」

すると、男性社員は平然と答えた。

「だって、社長、私の顔をじっと見て、顔を洗って出直して来い！ っておっしゃいましたよね。なので、一晩じっくり寝て今朝は普段よりも入念に洗顔してから出社しました」

主客転倒

商売繁盛している日本料理店。板前を兼務している主人の腕はいい。ところが酒好きときた。

ある日、泥酔したかつての修業仲間が客としてやって来た。客は酔った勢いで主人の腕を確かめに来たのである。創作料理を注文した客は一箸つけると、その味に激怒した。主人はレシビを詳しく説明したが、客との間で口論となり、ついには取っ組み合いの喧嘩となった。2人とも床に転んだ。客は打撲で済んだが、主人は利き腕を骨折してしまった。それ以降、店は左前になり、やがて倒産した。その店を買取り、再建したのは客であった。

厚顔無恥

女性が化粧をする理由は素の自分を見せたくない、見られたくないからだ、と言う人がいる。

「そっかア。なるほど。これで気持ちの繊細な彼女が厚化粧をしている理由が分かったよ。つまり、素顔を隠せば、ずうずうしく振舞って恥ぢずかしくないわけだ」

(四〇)

まだ、寝足りない

— 妻は専業主婦。

夕食後、ソファでうたた寝をすることがある。

それを見て、夫が声をかけた。

「俺が仕事で留守のうちに昼寝をすればいいだろ」

妻は欠伸をかみ殺して答えた。

「うん。今日は2時間しかできなかったからあ、眠いの」

見とれる

— ホームランバッターが3球とも見逃して三振した。

ベンチへ戻ると、監督が声をかけた。

「どうした？ 好きなコースだろ」

バッターは苦笑を浮かべて答えた。

「はい。すべてド真ん中の直球でした。あんな打ち易いボールを連続

3球見る機会はありません。つい、見とれてしまいましたア」

国民性

世界を周遊する豪華客船が難破し、4人の男が見知らぬ島に上陸した。島民たちが何やら怪しい食物を差し出してくれた。手をつけようとしていない客人たちに首領らしき老人が手振り身振りで食べるよう声をかける。

イギリス人には、「食べれば、あなたは紳士です」。

ドイツ人には、「食べることはマナーです」。

日本人には、「みなさん、食べてますよ」。

北朝鮮人には、「えっ。もう、食べてしまったのですか?」。

ダルマさんが転んだ

登山をしている5人連れ。熊に遭遇してしまった。こんなとき、慌てて逃げたはいけない。逆効果である。

熊は涎よだれを垂らして人間たちを順に睨みつけていく。5人は直立不動の姿勢で横一列になり、鬼の形相で熊の目を凝視している。その勢いに圧されたのか熊はくると背中を向けて、ゆっくりと歩きはじめた。

一步、二歩、三歩、歩いて不意に止まり、さっと振り返る。人間も後退あとずさるが、熊に睨まれると直立不動でまた鬼の形相になる。

熊はまた背中を向けて一步、二歩、歩いて不意に止まり、さっと振り返る。それとともに人間は後退するが、また直立不動になり緩めた頬を強ばらせ、鬼の形相になる。

熊はまた背中を向けて……。人間はまた直立不動になり……。

兄への疑問

小母 美穂ちゃん。お兄ちゃん、大学へ進学したそうね。

美穂 はい。

小母 大学生の生活ってどうなの?

美穂 よくは分からないけど、忙しそうで大学の講義が終わってから

予備校へ通っているみたい。

小母 ええッ? 2浪して入学したわよねエ。

美穂 はい。

小母 なのに何故、予備校?

美穂 うくん。補習を受けているんだって。

小母 大学生なのに、補習? 学生の学力が下がったってよく耳にするけど……。

美穂 どうなんだろう?

小母 きつと大学でも落ちこぼれてるのねエ。

(付記。実は公務員採用試験の受験勉強のために予備校へ通っているのです。)

職務の一部

妻 お隣のご夫婦、結婚し30年になるそうよ。

夫 ほう。よくもったなア?

妻 それで。この間、大きな口喧嘩もしたことがないんだって。ご主人は包容力のある方みたいよ。

夫 それって俺への当てつけかよオ? とところで、ご主人の仕事は何?

妻 消防士みたい。

夫 なるほど。それで火種を消すのが上手いんだ。

戒名は体を現す

—— 遺影を見ながら、友人たちの会話。

あいつは何事にも自分の意見を口にしないと気のすまない性格だったな。うん。なるほどいい戒名だなア。

「一言居士」

責任転嫁

娘は反抗期。生意気なことを言う。それを母親が叱る。

「まだ中学生のくせに大きな顔をするんじゃないの！」
すると、娘は不満気に答えた。

「誰がこんな大きな顔に生んだのよ」

走れ、いじめられっ子

少年は上級生たちにいじめられていた。

「3丁目の角にある自販機で缶コーヒーを買って来い！」

少年は怖くて、自販機を目指して走り、息を切らして戻ってきた。

「遅いんだよ！ 8分もかかってんじゃない。中身が冷めちゃう。このバーカ」

「もう一度、行って来い！」

少年は怖くて、懸命に走った。

「また8分もかかってんじゃない。このノロマ」

それでも少年はぶん殴られなくてよかったと思った。

次の日も命令された。

「3丁目の角にある自販機でオレンジジュースを買って来い！」

少年は怖くて、懸命に走り、ジュースを買って帰った。

「遅いんだよ！ 5分もかけやがって。このウスノロ野郎」

「もう一度、行って来い！」

少年は怖くて、心臓が破裂するほど、懸命に走った。

(四二)

「何度、言ったら分かるんだ。遅いんだって！」
その次の日も命令された。

「3丁目の角にある自販機で水のペットボトルを買って来い！」
今日も少年は怖くて、一生懸命走った。

来る日も来る日も、複数の上級生たちから使い走りを命じられた。

・・・

2カ月後、少年は叱られなくなった。むしろ感謝されていた。

「ありがとう」

なぜなら、3分で往復できる走力を身に付けたからである。

償いの色

大学の同窓会。2人の老人が顔を合わせた。男Aは哀れみを含んだ目をして男Bへ声をかけた。

「お前、政治家になったのはいいけど、汚職で逮捕されて刑務所に収監されてたんだろ？」

疲れた表情の男Bは、

「ああ。つい出来心で、贈収賄をやってしまったんだア。うまく誤魔化して灰色事件にしてやろうと思っただが……。ヘッヘッヘッ」

と、自嘲気味に笑った。

男Aは、また訊いた。

「で、生活はどうなの？」

男Bは深刻な声で答えた。

「ああ。大変だよ。信用を失くし、罰金も払ったし、いまじゃあスツカラピンの無職(色)さ」

へぼなストーカー

男が女に告白した。しかし、つれなく断られた。男は腹いせにいたずらの手紙を書いては投函した。2017年6月1日以降も投函したが、差出人の氏名と住所のない手紙は受け取り拒否をされ、それ以後、配達されずにすべて郵便局に留め置かれた。男はこの日から封書の切手代金が82円から84円に値上がりしたことを知らなかった。

売約済み

男はアパートの家賃を3カ月滞納していた。毎日のように大家がやって来て、「払えないのであれば、すぐに出て行ってくれ!」と怒鳴られていた。

ある日、男は大家を部屋へ招き入れ、泣きながら訴えた。

「見てください。テレビも冷蔵庫も机も……みんな赤札が付いているでしヨ」

確かに、赤札が貼られていた。男はさらに続けた。

「税金を納められなくて、みんな差し押さえられたんですよ。払いたくても家賃を払えないです。もうしばらく待ってくださいよ。クッククック」

その声に耳をかさず、大家は1枚の赤札を剥がして、言った。

「これ、家具屋の売約済みの札でしヨ。売れたんですね。じゃあ、これで家賃を払ってください」

春は休もう

テレビゲームで遊んでばかりいる息子を父親が諭します。

♪蛍の光、窓に雪、書よむつき日、……♪

「この歌はロウソクや電灯がなかった昔、螢や雪を明かりとして勉強したことを歌ったものだ。貧しいながらも工夫して勉強すべきことを教えてくれている」

「じゃあ、お父さん。春と秋はどうしてたの?」

「んんっ?」

「だって、螢は夏、雪は冬でしヨ」

「秋は紅葉を灯りとしたんだ」

「じゃあ、春は?」

「春は、春は……日の光に気づかなかったんだな」

「なぜ?」

「春眠、暁を覚えずって言うだろ」 父親はニツと笑わざるをえなかつた。

殺し文句

ささいなこと夫婦喧嘩をした。妻は3度の食事も作ってくれない。

夫は怒り心頭に発し、ついに怒鳴った。

「すまん。俺が悪かった!」

空への憧れ

— マンションの屋上から独居老人が飛び降り自殺をした。
 「理由は何ですか？ 病苦？ 生活苦？ 寂寥感？」
 「いいえ。遺書によると、少年の頃から鳥になることが夢だったそうです」

愚民の楽園

— ある大学の学長選挙。候補者は2名の教授。
 A教授 研究教育業績に優れ、とりわけ研究活動と、その成果にうるさい。
 B教授 学内行政に奔走し、顕著な研究教育業績などなく、組織の改編に興味あり。
 投票の結果、B教授が選出された。
 平の教授のコメント「だって、論文を書くのは大変だし、専門家の評価を受けたくないもの」

呼び名

— 女房。
 古狸と呼べば怒ります。
 強いて言えば、田舎の挨拶ですかねエ。
 そう、おばんです。

深聴き

— 息子の嫁が掛け時計を見て、心配しています。
 「お祖父ちゃん。まだ帰ってこない。遅いねエ。もう6時よー」
 その声が隣の和室でうたた寝しているお祖父ちゃんの耳に入ります。
 「もうろくジジイ、とは悪く言われたもんだなア」

思いは同じ

退社近い時刻になったとき、部長から残業を命じられた。嫌だという心の叫びが顔に出てしまったのか、私を見る部長の目が一瞬、険しくなった。部長は会議室へ消えた。
 しばらくすると、電話が鳴った。私は受話器をとった。
 「Mの家族の者ですが」
 部長宛てだった。どうやら奥様らしい。
 「今、部長は臨時の会議中ですが、折り返し電話をするようお伝えしましょうか？」
 「あッ、では伝言をお願いします」
 「はい。どうぞ」
 私はメモ用紙を引き寄せボールペンをもった。
 「夕食ができたから早く帰ってくるように、とお伝えてください」
 「えッ？」と出そうになる言葉を飲み込んで、一応書き取った。
 「部長へ」 「T」受け。
 奥様より、ご伝言がありました。

「夕食ができたから早く帰ってくるように」とのことでした。

消費税の税率引上げ(2014年)への対応

(1) 駆け込み需要。

― 牛井店での広告。

『お客様へ。4月1日の消費税の引上げにともない牛井並盛りの値段を280円から302円へと改定させていただきます。お客様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い致します。店主より』

ある男。やっべ。今のうちに食っておこう。

(2) 駆け込み整形。

― 消費税の引上げまで後8日。

テレビのニュースによると、美容整形を受ける女性が急増しているようです。どうやら美容整形は消費税の課税対象サービスらしい。

(3) 駆け込みダイエット。

― 街角でのインタビュー。

消費税の引上げにはどう対処されますか？

「給料も上がりそうにないので、節約するしかないですね。4月以降はなるべく洋服の買い控えをしたいと考えています」

以上、この年明けからジョギングを始めたという中年女性へのインタビューを終わります。

(4) 短縮通話。

いつもは携帯電話から長電話をしてくる娘が、電源がなくなったと言って、公衆電話から電話をかけてきた。いつもより手短に用件のみを告げて、切れた。

公衆電話の通話料金が10円1分から57・5秒に短縮されたようだ。

(5) そこまで節約するか？

娘が父親に尋ねます。

「お父さん、4月から消費税率がアップするよね。一度、アップすると下がることはないそうよ。祭壇や棺、霊柩車代、位牌、墓石にも課税されるそうだけど、このうち不要なものってあるかな？」

父親は俯き「ぜんぶ必要だ」とボソッと答えた。(火葬・埋葬は非課税です。)

伝えたいことは？

書名だけを見ても何を伝えたいのか、不明なものがある。

書名『認知症 医療の限界、ケアの可能性』

完治しないので、介護しろということか。

書名『脳で悩むな！ 腸で考えなさい』

便秘の治療法を書いてあるのか？

読者層

― 啓発本の帯。

「80歳で4割が認知症になる事実。この兆候は20年前から現れる。だ

から50代60代は必読」

私は70代だから、手遅れと認知し、購入しない。

真意

ずっと生きていたいから、自殺したいって言う。

死にたいということは、ずっと生きていたいことの証。

啼かぬなら、啼かなくてもいいんだよ、ホトトギスたち。

ビジネスチャンス

— 架空請求詐欺メールが届いた。

小説家 いいアイデアをもらった。

校正係り その下手くそな文章を添削してあげてから、添削料金を請

求するメールを返信した。

親切なおアドバイス

— 架空請求詐欺メールへの返信。

(そのわがままな心中を察し)「あなたがお書きになった、このエッセイはコンクールで大賞を受けることになりました。賞状を差し上げますので、詳しい住所、氏名、年齢、職業、連絡先電話番号をお知らせください」

(その下手くそな文章に腹立ちをおぼえ)「送信される前に一度、誰かに読んでいただくか、あるいは誰かの前で大きな声を出して読んでみてください。そう、最寄の警察署内にある特殊詐欺課の刑事さんに

(四六)

聞いていただくときつと改善すると思います」

略字

この季節(11月中旬)になるとFA (Free Agent) という言葉をよく耳にする。FA宣言って何?これは特定の球団の支配下にあるプロ野球選手が自由に他球団への移籍を交渉できる権利を行使することである。その交渉をしたいと表明することをFA宣言すると呼んでいる。でも、使う人によって様々な意味がある。

政府が政策目標として完全雇用 (Full Employment) を宣言すること。就活生が就きたい職業として客室乗務員 (Flight Attendant) を宣言すること。

火災報知機 (Fire Alarm) の誤作動から生じた人騒がせ (False Alarm) な事態が収束したと宣言すること。

生け花 (Flower Arrangement) は日本発の芸術 (Fine Art) だと宣言すること。

恐妻(共済) 保険

— 入会案内。

離婚の心配なんて、もっと先の話だと思っていました。

ヨコ文字

— 新聞を開くと、やけにヨコ文字が溢れている。

祖父 キヤシユレス社会って、なんだア?

孫 現金を持ち歩かなくても生活できる社会だよ。
祖父 すべて配給か？

毒は毒

— アルコール中毒者の治療。

医者 なぜ、中毒になるまで飲んだのですか？

患者 はい。毒をもって毒を制しようと「迎え酒」(2日酔いの気分

の悪さを楽にするために飲む酒のこと)を繰り返しました。

医者 なるほどオ。毒をもって毒となる。毒は毒ですよ。

同類相憐れむ

— 大学での演習。テーマ「教師の質はなぜ低下したのか」

担当教授がテキストを要約してしゃべる。

全国の公立小中高校などの教師をめぐる事件報道が絶えません。わいせつ、万引き、公金の横領など。新聞によると、2016年度のみで262人が処分され、過去最多を更新している。このうち懲戒解雇されたのは129人で、やはり過去最多だった。ごく最近の報道では男性教師がツイッターで勤務先の中学の男子生徒のふりをして、特定の女子生徒の容姿をあげつらうなどの書き込みをする事件もありました。

「顔で損してるよな」「あの体型、あの嫌われようでよく学校来れるよな」

書かれた当事者の中学生も開いた口が塞がらないという教師の言葉としては想像しがたい幼稚な言葉です。

これらは一部の教師が犯す極端な不祥事でしょうか。そうではありません。平均的な教師の資質や教える能力が落ちている可能性があります。その一つの原因として著者は男女雇用機会均等法の影響があることを指摘しています。法律の制定と教師の資質とは一見、関係がないように思われますが、どちらも労働市場を対象にしており、共通点があります。この法律の主旨は性別による雇用差別をしてはいけないということですね。そこで女性の職業選択が問題となるわけです。

かつて教員養成大学を卒業する女性の花形職業として教師がありました。それは男性であれば、大手の企業へ就職できて女性ではできないという社会的な制約があったからです。均等法が制定される前の時代には、学業が優秀な女性は自ずと教師を目指したわけです。しかし、均等法が制定されて以降、女性も民間企業への就職がし易くなったのです。そのため、優秀な女性たちが教師よりもサラリーマンになることを選択し始めたのです。もちろんサラリーマンの給与が教師よりも高いという経済的インセンティブが働いているわけですね。

教師への需要は毎年、一定数あります。その一方で、そのなり手側の事情が変り始めたのです。学業が優秀な女性よりも質の劣る男性や女性たちが教師になつていくかもしれない。こうして一般的な労働市場を改善する政策が教師の労働市場へも悪影響を及ぼしている可能性がある、と著者は説明しています。

こうした説明について、君たちはどう思いますか？

「はいー」

「どうぞ。阿部君」

「はい。心配しなくても大丈夫ですよ」

「そうかい？ 小中高校の教育は大切だよ。教える教師の能力や資質が落ちているかもしれないだよ。楽観的でもいいのかい？」

「はい。だって、教わる僕たちの学力も資質も教師以上に落ちていますから」

〔付記。『朝日新聞』、2017年12月9日・28日を参照した。〕

社会人学生

― 教授の指導。

田中君に聞いたんだけど、阿部君は現状で80単位しか取れてないそうだね。残りの44単位を4年生の1年間で修得できるかい？ 大学を卒業するには124単位が必要だよ。

「……」

先日も駅前の居酒屋へ寄ったら、君は厨房で魚を焼いたり、お燗をつけていたね。わたしが寄ると必ず君の顔を見る。アルコールも入って、少しふらふらしながら作業をしていたぞ。頭は角刈り、顔は酒焼けしたようにドス黒いし、風貌はまるで中年のおっさんじゃないか。親父さんみたいな太った初老の小父さんと顔まで似ていたなあ。仲居の小母さんは奥さんのような口調で君にしゃべっていたし。すっかり居酒屋に馴染んでしまったのか？ 大丈夫かい？ 君は大学生だぞ。

「……」

夜中までアルバイトをするから、授業に出られないし、出ても居眠りばかりして、ノートも取らないから、試験にも合格しなんだよ。飲み屋でアルバイトをして学業が疎かになり、退学や休学をする学生の典型例だぞ。

「……」

大学生といえば大人だから、わたしはその大学生の君に説教をする気持ちはさらさらないから。でも、自分が面倒をみている学生が留年

(四八)

しそうだから、こうしてアドバイスをしてあげてるだけさ。誤解しないでくれよ。

「……」

アルバイトをする時間や日数を減らして大学の授業に集中しなきゃ、ほんと留年だぞ。このままでは卒業見込み証明書も発行されないから、就職活動だって十分にできない。真剣に自分の人生を考えなさい。

友人「阿部よ。お前、卒業のことで教授に説教されたんだったって？」

阿部「何くんも、何くんも。何が説教だよ。ほんとウザいんだよな。」

仕事はしなきゃならないんだ」

友人「そう言うなよ。心配してくれてんだから……」

阿部「むこうの勝手だって。俺は居酒屋の店長だぜ。経営学を勉強したくて社会人入学をしたんだ」

ギャンプル

― 教授の指導。

阿部君。大学を卒業できるの？ 残り40単位を4年生のこの1年間で取得できるかい？ これでは留年を覚悟しないと。

「頑張ります」

噂によると君は1週間に4日もパチンコ屋通いをしているそうだね。もはや中毒、いやギャンプルだよ。君はまずパチンコ店の軽罪学部を卒業しないとイケないな(笑)。

「……」

パチンコをはじめギャンプルというものは「負ければ金を失い、勝てば人生を失う」という悲劇の縮図みたいなものだ。

「……」

ギャンブルなんて道楽だと考えて、勝つてやろうとか元を取り戻してやろうとか『自己主張せずにコツコツ働しながら夢を捨てない』このバランス感覚でパチンコもすべきだと思うけど。違うか？

「……」

勝つたときの高揚感が忘れられないのだから？ ギャンブル場とはそんな一攫千金を夢見る『希望という名の病氣』の伝染病に罹った人たちが集まっている所だよ。その夢を捨て切れない気持ちを持って生きている人たちにとっちゃあ楽園かもしれない。

「確かに、人生を感じるときもあります」

その通り。ギャンブルには確かに人生のシンボルみたいな所がある。これに打ち込める人間は人生にも打ち込めるタイプじゃないでしょうかねえ。

「……」

それが証拠にドストエフスキーはルーレットに溺れた経験から『賭博者』という佳作を書きました。また、バルザックもギャンブルで作った借金を解消するために膨大な作品を書きまくりましたよ。

「……」

ギャンブルという遊びに溺れるのもその遊びが難しいから面白いのでしょうかね。

「勝つには経験がものをいうこともあります」

その経験という「貯金」がギャンブルを『複雑、高踏、難解でスリリング』なものにしているのですよ。きつと。

「そこまで深くパチンコを考えたことはありません」

そんな中途半端なギャンブラーじゃなく、パチンコの経験を活かしてもう少し真剣に人生を考えなさい。

「ですから、パチンコへの勝負勘を活かして、この4年間、どの科目の単位が取りやすいのかを予想してきました。まだ、一発逆転のチャンスは残っています」

(付記。ちくま文庫編集部、2017、「わかっちゃいるけど、ギャンブル」ちくま文庫、94、135頁、188頁、281頁、289頁、312頁、314頁、327頁より一部引用、参照した。)

(了)

